地球ひろば

共につくる　ぼくらの未来

協力：ＪＩＣＡ（ジャイカ）
https://www.jica.go.jp/hiroba/

セネガル②

■国名　セネガル共和国
■面積　19万7161平方キロメートル（日本の約半分）
■人口　約1541万人（2016年、世界銀行）
■民族　ウォロフ族、プル族、セレール族など
■言語　公用語はフランス語、ほかにウォロフ語など民族語
■宗教　イスラム教（約95％）、キリスト教、伝統的宗教
■時差　９時間（日本が進んでいる）

国民食の自給率を上げる

セネガルの国民食「チェブジェン」

世界には十分な食事や栄養を取ることができず苦しんでいる人が多くいます。世界全体では減ってきましたが、いまだ９人に１人が十分な食料を得ることができず、特にアフリカ地域では成人の半数以上が食料の問題に直面しています。

家庭の味「チェブジェン」

アフリカ大陸の西海岸沿いの国セネガルも、栄養不良の問題を抱える国の一つです。５歳以下の子どもの約５人に１人が、栄養不良だと言われています。人々が毎日の食事を十分に取れるような対策が必要です。

セネガルの人たちが日常的に食べている料理は「チェブジェン」です。野菜と魚の煮汁で炊いたごはんに、野菜と魚を盛り付けたトマト味の料理で、セネガルの国民食です。

稲作栽培研修を受けることで、収穫にちょうどいい時期を学び、品質のよい米が取れることが期待されています

漁民ら全員でタコツボ設置

しかし、チェブジェンに使う材料を自分の国で生産できているかといえば、米は40％、トマトペーストは約半分をセネガルで生産し、多くを外国からの輸入に頼っています。魚も、これまでに取りすぎてしまったことから、種類によっては量が少なくなっています。

人口が増える中、セネガルにとって食料を自給することは、国の未来にも関わる大きな課題となっています。こうした状況を変えるために、自給率を上げる取り組みが始まりました。

日本はセネガルでの米、トマトペースト、魚の生産に関わっています。米については、セネガル川流域の水路を整備し、稲作技術の改良を支援しています。

トマトの生産には日本の企業が協力をしています。トマトソースはセネガルをはじめアフリカ地域では欠かせない調味料です。食品大手メーカーのカゴメは、セネガルでソースに使う加工用トマトの生産増加のための事業を始めています。

魚介類は今後も安定して取ることができるよう、漁師が一丸となって活動できる組合をつくるなど、魚を取り過ぎないためのさまざまな仕組みづくりを支援しています。

ＪＩＣＡ農業・水産開発担当
関口卓哉さん

2016年６月からＪＩＣＡセネガル事務所で農業・水産開発、周辺国のガンビアの協力を担当しています。大学院卒業後、ＪＩＣＡ本部（日本）で主にアフリカ、中東、中央・南アメリカを対象とした森林・自然環境の保全を担当してきました。人の暮らしをよくするための開発が自然と調和し、次の世代に豊かな地球環境を残せるよう、貢献していきたいです。

はじめよう SDGs

調べてみよう 考えてみよう

2 飢餓をゼロに

Q 日本人にはなじみ深いお好み焼きですが、材料の豚肉・エビ・かつおぶしが日本で作られている割合はそれぞれ、どれくらいかな。

A 豚肉47％、エビ3％、かつおぶし71％です。特にエビは、ベトナムやインド、インドネシアなどの遠洋で獲っています。産地から食卓まで「輸送された距離」に「重さ」をかけた値で環境への負担の大きさを表すフードマイレージという考え方があり、日本は世界で最も大きい国と言われています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標　ＳＤＧｓ
（Sustainable　Development　Goals）
2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。

2 飢餓をゼロに

飢餓のない世界へ

「いただきます」と手を合わせるとき、みなさんは何を思いますか？

私たちが暮らす日本は、食料自給率は約40％と先進国の中でも最低水準で、食べ物の多くを海外からの輸入に頼っています。一方で、まだ食べられる食品を年間約650万トンも捨てています。それは世界の1年間の食料支援である320万トンの2倍以上に当たります。

毎日の食事で元気をチャージするのは、人類共通です。しかし、地球全体でみれば十分な量の食料が生産されていても、それが公平に行き渡らない社会に私たちは生きています。

ＳＤＧｓゴール2が目指すのは、飢餓がなく、すべての人々が一年中食べ物の心配をしなくてよい社会です。身近な食事の問題を通して、ＳＤＧｓ達成のために私たちにできることがないか考えてみましょう。